分　野　（　1　）小児・思春期を対象とした環境保健事業の事業実施効果の適切な把握及び事業内容の改善方法に関する調査研究

研　究　課　題　名：ぜん息患者の自立を支援する長期管理に関する調査研究

調査研究代表者氏名：大 矢　幸 弘

評価コメント

・テイラー化教育プログラムの有用性を600例以上の多数例で検討した群での喘息による予定外受診の有無の減少を示せたのは成果である。

・アクションプランの改訂も行われ研究は順調に進んでいると思われるが、症例数がまだ十分ではないと思われるのでもう少し症例を増やしていただきたい。また、テイラー化したプログラムとアクションプランの併用した症例数も増やしていただきたい。

・発作時対応のアクションプランと発作予防教育プログラムを個々の患者用に提示する試みは、きめ細やかな指導ができ、有用な研究であると評価される。現在のところ、専門医療機関が中心なので、今後、非専門医療機関でこの方法がどの様に活用できるかを含めて普及の検討をする必要がある。

・個別的な患者の行動変容を促す支援が、喘息の治療及び発作予防に有効であることを示された。

・行動科学的アプローチを含む吸入指導マニュアルの有用性が示唆され、今後の利用に期待できる。

・喘息個別の対応プランや集団介入方法が開発されているが、広く採用されるようにならなければ自己満足となるのではないだろうか。

・患者、保護者を対象としたテイラー化教育プログラムをタッチパネルで導入することも、今後の展開が有用と思われる。

・喘息個別対応プランは使いやすくて、患者自身がその有用性を認識できるものでなければ永続させることができない。喘息の長期管理という点で、このプランが臨床的にどの程度有用であるか、さらに検証を重ねる必要がある。

・行動科学的アプローチの有用性をより前面に出すべきである。また、個別プランの適応をいかにするか、また、吸入指導のマンネリ化を防ぐ方法についても検討が必要である。

・研究成果をパンフレット又はDVDにして多くの方に利用してもらうべきと考える。

・全体の仕事が多岐にわたり散漫となっていないか？